

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

千葉商科大学・数理データサイエンス教育プログラムに関する規程

② 体制の目的

本学基盤教育機構情報科目分科会は、よりよい情報教育の展開に向けて、全学共通カリキュラムであるCUC基盤教育科目群の情報科目に関わる教育全般について議論や運用を行ってきた分科会である。CUC基盤教育科目群の情報科目で構成する本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの設置、普及、改善等についても、これまでの本学独自の情報教育内容からのスムーズな移行、新展開を考えた場合、本分科会において扱うことが適切であるとの判断から、継続的に議論と運用を行っている。令和3年度は、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの設置、関連科目の整備、全学的な普及を行うとともに、令和4年度以降に向けた運用や進展等の議論も行っている。

③ 具体的な構成員

<リーダー>

国際教養学部教授 柏木 将宏

<構成員>

基盤教育機構教授 寺野 隆雄

基盤教育機構助教 赤木 茅

基盤教育機構助教 江草 遼平

基盤教育機構助教 新井 裕太

基盤教育機構助教 古宮 望美

基盤教育機構助教 長岡 篤

商経学部准教授 小林 直人

政策情報学部准教授 長尾 雄行

サービス創造学部准教授 仲野 友樹

人間社会学部教授 鎌田 光宣

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	2%	令和4年度予定	3%	令和5年度予定	8%
令和6年度予定	13%	令和7年度予定	18%	収容定員(名)	5,640

具体的な計画

目標を実現するために、令和7年度より全学的なカリキュラム改定を予定しており、本プログラム修了のために修得が必要な「情報入門」「情報と倫理」「統計学入門」の各科目を設置するCUC基盤教育科目群において、履修率向上に向けた対応を行う見込みである。3科目とも、1年次からの受講が可能であり一部は必修科目である。選択科目も、設置コマ数及び履修定員を順次増やす方針とすることにより、令和7年度以降段階的に履修者・履修率の向上を目指し、令和8年度は25%、令和9年度には全学生の履修率が25%超となる見込みである。

また、授業時間内外での学習指導、質問を受け付ける仕組みや教育上の工夫、学生指導・支援等の学修サポート等について、基盤教育機構情報科目分科会等において、より適切なものとなるよう定期的に検討していく計画である。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラム修了のために必要な科目は、すべて本学基盤教育機構で開講されているため、学部・学科関係なく、希望する学生全員が受講可能である。上記の目標を実現するために、令和7年度に予定されている全学的なカリキュラム改定の際に、本プログラム対象科目の開講コマ数の増加と教育方法の工夫による履修定員の増加、また一部は必修科目化するなどによって学生全員の履修機会の拡大を計画している。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学後の履修ガイダンス時において、新入生に対して周知している。また、履修相談等に応じる職員が常駐しているキャンパスライフセンターでの周知や、本学ポータルサイトの掲示機能や学内のデジタルサイネージを用いた周知等の他、本学Webサイトに本プログラムのページを設置して関連情報を掲載し在学生在が情報を得やすい環境の整備に取り組む。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

令和6年度までは、本プログラムは既存科目による運用となるため、履修率は現況を元に算出している。令和7年度以降は、学生の履修機会を確保するため、教務課において本プログラム対象科目の履修希望者の概数を把握し、その状況に鑑みながら履修定員の調整を図る。また、開講クラス数の増加も視野に、本プログラム対象科目の担当が可能な教員の確保を新規採用も含めて検討する。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本プログラムの対象科目では、本学のLMS「CUC PORTAL」を利用した担当教員への履修者からの個別質問の受け付けが可能である。また一部科目ではオンライン授業用プラットフォームも活用することで、投稿やチャット機能などを用いた授業時間内外で質問対応ができるようになっている。担当教員は、これらの質問に返信する形、あるいは直接履修者へ対応する形で、随時の学習指導等が可能である。なお、担当教員間の状況共有や指導内容のすり合わせ、教材の改善などは、必要に応じ基盤教育機構の情報科目分科会が中心となって対応する体制とする。